

研究主題

自分の考えをもち、発信できる児童の育成

中学年の目指す児童像「発信する方法を選べる児童」

第4学年 国語科 学習指導案

日 時 令和6年10月23日

5校時 13:15~14:00

対 象 第4学年2組33名

指 導 者 ○ ○ ○ ○

1 単元名 「写真俳句をつくろう」

2 単元の目標

○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにする。

【知識及び技能】

○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

○積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、商店街の様子を俳句で表そうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ)	①書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ)	①進んで語彙を豊かにし、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、商店街の様子を表す俳句をつくろうとしている。

4 単元について

(1) 指導内容

本単元では、重点指導項目として、学習指導要領における（思考力、判断力、表現力等）の「B 書くこと」(1)オ「書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること」を取り上げ指導する。

俳句は四季の移り変わりや、暮らしの中から生まれた日本独特の短い定型詩である。七五調を中心とする言葉の調子やリズムに親しみ、創作することにより、凝縮した表現で捉える楽しさを味わうことができる。これまで「春の楽しみ」、「夏の楽しみ」「秋の楽しみ」の3つの単元を通して俳句に親しみ、

「季節の言葉」に数多く触れてきた。

今回、俳句を創作する過程において、「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」を繰り返し取り組むことで、言葉のもつよさに気づき、語彙を豊かにしたり、言葉の使い手としての感覚を磨いたりできるようにしていきたい。また、主題に迫るために児童が直感的・感覚的に感じたことや想像したことを基に、限られた字数の中で表す言葉や表現を考え、自分の感じた情景を伝え合うための手掛かりとして写真俳句を取り入れた。写真と俳句を融合させて表現することで、児童一人一人がもつ世界観をより伝えやすくなると思った。また、その都度、句会を設定し、友達と俳句を交流し、互いに評価し合うことで、俳句の楽しさを実感させ、再び作品を創作、発信していきたいという意欲につなげていきたい。

5 児童の実態

本学級の児童は、「書くこと」の活動に対しての意欲が高く、自分の思いを文章で表現することに対して積極的に取り組む児童は多い。1学期の単元「アップとルーズで伝える」では、気になったことアップとルーズで見て、気付いたことを紙いっぱいに書き、相手に伝わるように書くことの難しさと楽しさを味わった。季節や行事毎に詠む俳句づくりにも意欲的に取り組み、教室内に掲示してある作品を見合いながら互い作品の良さを認め合う姿もある。一方、表現の幅が狭く、毎回似たような句を詠む児童、何を捉えて詠んでよいか分からない児童も一定数いる。また、句を詠んで満足をしてしまい、グループで感想を伝えあっても、作品をより良くしようと粘り強く取り組んでいるとは言えない状況がある。何事にも「やってみよう」という気持ちは強いが、学習の深まりや試行錯誤の仕方に課題があるので、時間を十分に確保して、交流の仕方などの手立てを工夫しながらより深い活動となるように指導していきたい。

6 研究主題に迫る手立て

自分の考えをもち、発信できる児童の育成

中学年の目指す児童像「発信する方法を選べる児童」

当該学年の児童は、表現する方法、発信する方法が単調となりがちである。

そのため、全教科を通して、様々な表現方法、発信方法があることを知り、表現する楽しさ、発信する楽しさを味わうことができるように学習を進めている。

(1) 自分の考えを「もつ」「もちやすくする」ための手立て

①写真俳句について

自作の写真に自作の俳句を詠むことで、俳句では伝えられない、写真だけでは伝わらない、そんなイメージの世界を創り上げるのが写真俳句である。本来は、流れゆく生活の中の一部を心に留め俳句を詠むのだが、写真俳句は、その一瞬を写真に撮り、切り取ることで、その情景をもう一度よく見返すことができ、自分の考えがもちやすくなり、考えが深まったりするだろうと考えた。また、受け手にとっても写真俳句は詠み手の心情を共有しやすくするだろうと考えた。

②語彙を豊かにする工夫

年間を通して俳句を詠むことは、多くの季語に触れるだけでなく、語彙を増やすことにつながるだろう。自分の考えをもちやすくする工夫として、矢口オリジナルの「季語集」を作成して手元に置いたり、「歳時記」を教室に置いたりして語彙を豊かにする環境を整えた。同時に、多くの著名の俳句を音読したり、暗唱したりすることで俳句への興味関心をさらに高めた。また、既習した言葉を集めた「言葉のたから箱」集を手元に置くことも、俳句を詠むうえで、表現の幅が広がると考えた。

(2) 自分の考えを「発信しやすくする」ための手立て

①「矢口のよき俳句5か条」の提示

5か条を常に提示することで、俳句が詠みやすくなったり、推敲しやすくなったりするだろう。また、句会での指針となると考えた。

②写真俳句

句会で俳句を詠む際に、写真があることで心情を伝えやすく（発信しやすく）なるだろう。

★矢口のよき俳句5か条

- ① 伝えたいことを一つにしぼっているかな。
- ② リズムがよき
- ③ オリジナルである
- ④ 聞いている人の想像がふくらんでいる
- ⑤ 表現の工夫あり（体言止め、切れ字（や、かな、けり））

③交流の仕方の工夫

3年生との句会、学級での句会、学年の句会等様々な形態の句会を設定した。また、できた句を教室や廊下に掲示し、交流できる環境を整える。

学級での句会では、交流活動の意義などを児童に明確に示すとともに、交流の対象や目的を十分に理解させた上で活動させることで、互いの学びを広げたり深めたりすることができると考え、3つに分類して提示する。また、教員が児童の学習状況を確認したり、児童と話し合ったりしながら、様々な学習交流を設定することで、児童の試行錯誤が促され、新たな発想や創造につながると考えた。

①出し合う交流活動・・・写真俳句を詠み合い、自分が詠んだ句の説明をする。感想を伝え合う。

②比べ合う交流活動・・・似たような写真を選択したもの同士で集まることで、互いの見方や考え方を比較しながら句の面白さを味わう。

③高め合う、みがき合う交流活動

・・・お互い創作したものについて助言したり、批評したりする活動を通して、他者の意見を取り入れて自分の句を再考するなど、互いに高め合い、磨き合う。

(3) 「発信する方法を選びやすくする」ための手立て

①ゴールイメージを持たせ、学習ストーリーを児童と組み立てる

児童に、単元導入でこの学習で養いたい力を伝え、学習のゴールイメージと単元の見通しをもたせる。また、毎時間、学習計画を児童と立て、「学び方」も児童に選ばせることで、発信する方法を選べるようになるだろう。そして、主体的に学習に取り組む姿勢を養うことができるだろう。

②ICT等の活用

- ・ムーブノート（情報交流）
- ・オクリンクプラス（班活動・情報交流）
- ・ピクチャーキッズ for まなびポケット（写真俳句）
- ・スライド（写真の共有）

7 創造的な資質・能力の素地を育成する

分かったことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるための言語や情報技術に関する知識及び技能を習得する。

8 カリキュラム・マネジメント

年間を通して取り組んでいる俳句と国語「心が動いたことを言葉に」を軸とし、社会「東京都の特色のある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」と総合的な学習の時間の学習を関連させ、教科等の枠を超えた横断的な学習を組み立てた。

俳句では、五・七・五の十七音から構成される句の特徴を踏まえて、感じたことや想像したことを限られた文字数の中で表現する学習をしている。そこで、講師として小山先生をお招きし、「写真俳句」に取り組み、写真を撮ったときに五感を使って感じた気持ちや様子、写真を見て想像した情景や雰囲気等を俳句として表現し、句を詠む楽しさに触れる学習を取り入れた。「心が動いたことを言葉に」では、単元の目標である「心が動いたことが伝わるように、言葉を選ぶ」ことを意識し、伝えたいことを中心に連想を広げて言葉を書き出し、本学習では俳句として表すことを学習する単元である。

社会科「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」では、新宿区の地場産業、伝統工芸である東京染小紋を人々が協力し守ってきたことや特色ある街づくりを通じた産業の発展に努めていることを学習する。また、この学習を通して伝統工芸品が多く残る東京都に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うこともねらいである。

総合的な学習の時間では、矢口小学校の先輩たちが安方商店街のためやってきたことを知り、小学校と商店街の関わりや思いを知るところから始まる。そこで、安方商店街へ行き、今までの矢口小学校の児童の取り組みや、商店街の人々の「嬉しかった」という思いを知り、矢口の町の一員であるという自覚を養い、「自分たちも商店街のために何かしたい」という思いを育む。そこで、国語科での写真俳句と矢口小紋が入ったオリジナルの雪洞を商店街のお店に贈ることをゴールとしている。

この3つの教科等で学習する単元を並行して学習することで、児童が心を動かされたことを俳句として表現し、伝統工芸やそれを取り巻く環境、地域を支えている人々の理解が深まると考え、これらの学習のスタート地点として本単元を位置付けることとした。また、この3つの学習をすることで、児童が探求と創造を繰り返し、自分の思いを写真俳句として伝えるために相手意識に立って多面的・多角的に考える力を養っていくことから教科「おおたの未来づくり」の素地作りになると考える。

9 他教科との関連

国語科「写真俳句をつくろう」(本単元)	
<p>社会科「東京都の特色のある地いき」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都の伝統工芸品として新宿区の「東京染小紋」を学習する。実際に「東京そめものがたり工房」に行き、小紋体験をする。(9月上旬) ・自分たちでデザインを考えたオリジナルの矢口小紋を作る。(10月中旬) 	<p>総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5、6年生の教科「おおたの未来づくり」の素地となる単元。矢口の町に必要なことを考え、学習してきたことをまとめ、発信する。 ・矢口小学校が商店街のために取り組んできたことを知り、矢口の町の商店街への思いを知る。(10月上旬) ・実際に、安方商店街に行き、商店街のことや、前年度までの矢口小学校の取り組みを知り、自分たちも地域のために何かできることはないかを考える。(10月中旬) ・商店街に行き、自分が気になったところの写真を撮る。(10月下旬)
<p>教科「おおたの未来づくり」の素地として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街を盛り上げる俳句矢口小紋付き雪洞を作り、商店街に贈る。 	

10 指導計画(6時間)

時	◎学習のねらい ○主な学習活動	◆評価規準【観点】(方法)
1	◎俳句を詠み合う楽しさに触れる。 ○秋の俳句に取り組み、3年生と句会を行う。	◆【知】①(作品・振り返り) ◆【思】①(発言・記述)
2	◎写真俳句について知る。 ○写真俳句について学習し、取り組む。 教師が用意した写真をもとに取り組む。 「矢口のよき俳句5か条」を知る。	◆【知】①(作品・振り返り) ◆【学】①(発言・振り返り)
3	◎伝えたいことが伝わるように、季語や言葉を意識して写真俳句を詠む。	◆【思】①(発言・記述)
4	○校内で気になったところの写真を撮り、写真俳句に取り組み、学年で句会を行う。	
5	◎友達に共感してもらえるように、表現の仕方を工夫して句を詠む。 ○自宅で気になったところの写真を撮り、写真俳句に取り組み、学級で句会を行う。	◆【知】①(作品・振り返り) ◆【思】①(発言・記述)
6 本時	◎アドバイスをもとに、より受け手に伝わりやすい写真俳句を詠む。 ○商店街の写真をもとに写真俳句に取り組み、句会を行い、改善する。	◆【思】①(発言・記述) ◆【学】①(発言・振り返り)

1 1 本時の展開

本時のねらい

- ・商店街の写真俳句を詠み、アドバイスをもとにより受け手に伝わりやすい写真俳句を詠む。

	○学習内容	・指導上の留意点	◎評価規準
導入 (8分)	○今までの学習の確認をする。 ・写真俳句のねらい、そこで身に着ける力の確認をする。	・あらかじめ児童が撮った写真を2枚(1枚は清書用)を印刷し、机上有る状態から授業をスタートさせる。	
	○本時の学習内容をつかむ。 ・商店街で撮った写真を確認する。 ・めあてを立てる。		
写真俳句をアドバイスをもとに改善しよう。			
	○本時の流れを決める。 ・児童が学習を組み立てる。		
展開① (20分)	○自分で撮った商店街の写真を基に写真俳句を詠む。(1人1句必ず完成させる。) ○グループ内で見合う。 ・似ている写真同士で集まり、見合う。 ・グループ内で詠んだ句の思いを共有し、友達からコメントをもらう。	・「季語集」と「言葉のたからばこ」を使い、写真俳句に取り組みやすくする。 ・似ている写真でとらえ方が違うという面白さに気づかせる。 ・机間指導をし、なかなか作品が進まない児童への言葉の選択や言い換えの助言をする。 ・大型ホワイトボードを活用し、そこに貼ってそれぞれが発表し合えるようにする。	
展開② (10分)	○小山正見先生より写真俳句のコツを教えていただき、俳句を改善させる。 ○全体に共有する。 ・改善したところを共有する。	・小山先生に改善できる児童の写真俳句を選んでもらい、書画カメラに写しながらご指導いただく。 ・言葉の言い換えなどが苦手な児童の助言をする。	◆【思】①(発言・記述)

まとめ (7分)	○振り返りをする。 ○小山先生から言葉をいただく。		◆【学】①（発言）
-------------	----------------------------------	--	-----------

1 2 社会で活躍する人との連携

協力者	依頼内容	資質・能力の育成に期待できる効果
小山正見先生	写真俳句のご指導	<ul style="list-style-type: none"> ・写真俳句を詠む楽しさを経験する。 ・俳句のリズムに親しみ、語彙選択や表現方法を豊かにする。

1 3 授業観察の視点

- ・季語集や句会の方法が本時のねらいを達成できる有効な手立てだったか。
- ・交流の仕方②の比べ合う交流活動が句の面白さに親しむ有効な手立てであったか。